

まちの話題



本市選手大活躍！

第16回長崎県障害者スポーツ大会

第16回長崎県障害者スポーツ大会が5月29日、長崎県立総合運動公園陸上競技場を主会場に開催されました。

本市からは、短距離走、ユニカール競技、投てき競技のソフトボール投げとジャベリックスローなどの5種目に35人が出場しました。

選手たちは、家族や応援者からの声援を受け、熱戦を繰り広げました。

本市の出場選手の上位成績者は次の通りです。

【個人】1位=12人、2位=4人、3位=2人



グラウンド・ゴルフで楽しい一日！

市老連グラウンド・ゴルフ大会

第11回松浦市老人クラブ連合会グラウンド・ゴルフ大会(同会主催、郵便局長協会共催)が6月2日、松浦市民運動公園で開催されました。

この大会は、グラウンド・ゴルフを通じて会員相互の親睦と健康増進を図ることを目的に毎年開催されています。この日は晴天に恵まれ、約220人が参加し、熱戦を繰り広げました。

上位の結果は次の通りです(敬称略)。

【男子】

- ①白川 清
- ②横田数敬
- ③福田 勉

【女子】

- ①森 美代子
- ②野口トラエ
- ③前川和子



いっちゃんの楽しいコンサート♪

市原隆靖さん「いっちゃん楽しいコンサート」

テレビ番組などの司会、オーボエ奏者として活躍している市原隆靖さん(通称いっちゃん)の「いっちゃん楽しいコンサート」が5月27日、青島小中学校と星鹿小学校で開催されました。この無料ソロコンサートは、株式会社ディーエスブランドの協力により、青島小中学校でのコンサートを皮切りに、県内の小学校で開催されます。

市原さんは、子どもたちに本物の音楽に触れ、オーボエという楽器を知ってほしいとの思いから、伝える楽しさを発信するコンサートを提案。この日、オーボエの演奏、手話を交えた歌などを披露。青島小中学校では、小中学生と地域の皆さんも一緒に楽しいひとときを過ごしました。



地域から元気を発信！

日本青年会議所長崎ブロック大会

2016年度公益社団法人日本青年会議所九州地区長崎ブロック協議会「長崎ブロック大会 in 北松浦」が5月28日、松浦市文化会館で開催されました。

本大会は、県民自らが自発的に地域を盛り上げ、活気あふれるまちづくりをすすめることを目的に開催。憲法や防災、選挙について考えるプログラムが行われ、県内7つの青年会議所会員の若手経営者や地域住民が参加しました。

メインフォーラムでは、元横浜市長の中田宏氏が「あるモノ活かして地域力発信！～地方創生フォーラム～」と題して講演。



横浜市長時代に取り組んだ財政改革の経験を基に「地方創生に必要なことは自立すること。国の補助金に依存しては地域は疲弊していく。自分たちの地域を守るのは自分たちでしかない。何でも行政に頼るのではなく、自分たちで何ができるか考えることが重要」と地方創生について語りました。

全国制覇を目指して！

長崎県高総体なぎなた競技

平成28年度(第68回)長崎県高等学校総合体育大会なぎなた競技が6月5日、松浦市文化会館で行われました。

大会の結果は、次の通りです。

なお、演技競技、試合競技 2 位までの選手と団体戦に出場する 7 人の選手は、8 月 5 日～ 7 日に山口県で開催されるインターハイへ出場します。

【演技競技の部】

- ① 川田・辻組 (松浦高)
- ② 小形・川本組(松浦高)
- ③ 末竹・池淵組(松浦高)
- ③ 冨野・貞方組(松浦高)

【試合競技の部・個人試合】

- ①川田 そら(松浦高)
- ②末竹璃琳捺(松浦高)
- ③小形 実久(松浦高)
- ③辻 杏(松浦高)



百歳おめでとうございます！

高崎任行さん

高崎任行さん(鷹島町・阿翁浦)が6月5日に100歳の誕生日を迎えました。

高崎さんは鷹島町生まれ。若いころから健康管理に注意され、90歳ころまで阿翁浦地区簡易郵便局でお仕事を続けられました。現在は奥さまと二人暮らしで、自宅内で簡単な体操や歩行訓練をされたり、日ごろから食事をしっかり食べることが長生きの秘訣のようです。

この日、高崎さんは自宅で家族に囲まれ、100歳の誕生日を楽しくお祝いしました。



大好評！苗木配布

電源開発株式会社松浦火力発電所

電源開発株式会社松浦火力発電所(宮内健夫所長)が6月13日、松浦中央公園で花の苗木配布を行いました。

この苗木配布は、環境月間の取り組みとして同社が毎年実施しており、今年は、ヒマワリ、コリウス、ケイトウ、ニューギニアインパチェンス、球根ペゴニア、ダリア、ギボウシの7種類の苗木400株が配られました。

この日、配布前から並んでいた多くの市民は、配布が始まると自分の好きな花苗を選び、笑顔で受け取りました。



豊漁を願い稚エビ池入れ

福島クルマエビ養殖場

今年度で操業開始から21年目を迎える新松浦漁業協同組合の福島クルマエビ養殖場で6月5日、稚エビの池入れが行われました。

30,000平方メートルの第1池に約1割程度の稚エビ95万尾が放流されると、稚エビは元気に我先にと池の底へ潜っていきました。

これまで東京の築地市場でも高い評価を受けてきた漁協のクルマエビ。今シーズンの豊漁とさらなる品質の向上を願い、池入れ後に神事が執り行われました。

9月初旬ころには体長約11～11.5割程度に成長し、今シーズンの出荷が始まります。

